

平成20年度 教師海外研修 (派遣国：マレーシア) 実践報告書

1. タイトル 環境問題をテーマとした公共広告ポスターの制作
2. 氏名 伊藤 俊晴
- 学校名 大阪市立工芸高等学校 担当教科 工業
(ビジュアルデザイン)
3. 実践教科 ビジュアルデザイン実習 時間数 22時間
4. 対象生徒 ビジュアルデザイン科2年 対象人数 40名

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

視覚伝達を行う上で、最も考えなければならないことの一つである「公共性」を、環境問題をテーマにしたポスターの制作をすることで理解させる。例としてパームオイルを取り上げ、身近にある生活が外国とつながっていることや、地球環境の問題も紹介し、グローバルな視野・思考なども行えるようにする。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2限目 (課題説明) 「公共広告とは」 「環境問題とは」	(理解・関心・意欲) ・パワーポイントを使い、ビデオや画像で説明する。	課題プリント パワーポイント 「小象の涙」VTR
3・4限目 (調査・分析)	(思考・判断) ・各自のレポートを基に、個別にテーマを検討する。	宿題レポート レポートⅠ レポートⅡ 資料等
5・6限目 (構想)	ラフ案の制作 ・構図、構成の検討 ・配色案の制作 ・カンパ制作	各種資料 配色カード
7～20限目	本制作	水張り用具

(制作)	<ul style="list-style-type: none"> ・ パネル張り ・ トレース ・ 着彩等 	(生徒) 画材等
21・22限目 (プレゼンテーション)	作品発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 制作意図説明 ・ 質疑応答 講評	イーゼル 指示棒

6. 授業の詳細

(導入部分である課題説明の詳細)

- 1) 今回の課題である「公共広告」について説明する。
- 2) 課題プリントを基に、条件・手順・日程について説明する。
- 3) パワーポイントを使い、テーマである「環境問題」の解説をする。
 - ・ キーワードとして「生物多様性」「Sustainability」「情報リテラシー」を解説。
 - ・ 資料提示
 - 「セヴァン・スズキの1992年スピーチ」(朗読) ※1
 - 「ハチドリのひとしずく」(紹介) ※2
 - 「財津昌樹のポスター等」(画像) ※3
 - ・ 「小象の涙」のビデオを見せる。 ※4
 - ・ パームヤシクイズ
- 4) レポート用紙の配布(次回までの宿題)

＜今回のビデオや話を聞いて＞〔回答〕

 - ① 思ったこと、考えたことは？
 - ・ 象も可哀そうだったが、象に畑を荒らされた人も可哀そうと思った。
 - ・ 安い植物性油を大量生産するために、動物が犠牲になるのは避けたいですが、人間も動物も生きるために必死なので、どんな方法が私たちに幸せなんだろうか。ということのを改めて考えさせられた。
 - ・ 何気なく食べているもの、使っているものが環境問題につながっているんだということがわかりました。知らないということが一番恐ろしいと思います。
 - ・ 何か＋になると代わりに何か－になる。ってことを改めて実感した。
 - ・ 私たち人間のせいで周りの生物たちは命をおとしていくんだと悲しい気持ちになった。
 - ・ 私たちの身の回りの身近なものが環境問題につながっているというショックが、私たちの環境問題への意識をたかめるのではないだろうか。
 - ・ 女の子のスピーチを聞いて、今、大人にできない事は自分が進んでやらないと、と思った
 - ・ 今、環境問題がなかなか解決しないのは、みんな何も知らないフリしてそのまま

で実感がないからだと思った。

- ・思っている以上のスピードで地球は滅びて行っているんだと改めて思った。
- ・環境にやさしいという良いイメージのパーム油が元の自然を破壊するものとなっているなんて思わなかった。とてもショックだった。

② じゃあ、あなたができることは？

- ・私ができる事は、無駄な事をしないように心掛けるとか、それくらいだけど、小さな事でもたくさんの生物が助けられたらいいなと思いました。
- ・資源を大切に使う。使えなくなるまで使う。
- ・とにかく消費をおさえましょう。
- ・割りばしやスーパーの袋も実際はエコに関係するのかわからないから、私ができるのは、食べ物を残さないとか電気をこまめに消すとかエアコンの温度とかしかなないように思う。
- ・ポスターにしたり、話したりして事実を伝えることができると思う。
- ・油ヤシ無しというのはいらない。
- ・人類がもっと謙虚に生きること。
- ・もっと今の現状を知る。知ったことを多くの人にも知ってもらおう。
- ・エコバックを使うとか、エアコンを緩めるとかちょっとずつならできると思う。
- ・ポテトチップスを食べすぎない。ポイポイ物を捨てない。
- ・環境問題について知り、考えること。
- ・普段使っているもの、食べているものの裏で働いている人々のことをちゃんと考えること。先進国である日本も何かできることがあると思います。ゴミを減らす、無駄使いをしないなど、簡単にできそうで意外に難しいことにもちゃんと取り組みたい。
- ・必要な分だけを摂取し、出されたものは残さずいただくこと。
- ・とりあえず目に見える問題から解決するべき。一番簡単なのはゴミをゴミ箱に捨てること。それだけで町や自然がきれいになる。
- ・物を捨てる時も、他の何かに使えないか考えてみる。
- ・聞いたり見たりしたことを疑うのではなく、そのことについて自分で調べたり考えたりしてみるようにする。

③ では、今回のポスターで伝えたいこと、訴えたことは？

- ・大きい環境はどうにもならない気がするから、ポイ捨てとか小さい所をどうにかしたい。
- ・地球の未来について、もっと考え欲しいということを伝えたい。
- ・物がたくさんある国に住んでいるからこそ、物の大切さを感じて欲しい。
- ・人間の都合で振り回されているものを取り上げ、動物と人間の関係を知らせられたらいいと思う。
- ・知らない事は罪、知って出来ることをやろう。

- ・人間に一番大切な「生活」についての見直し。
- ・ちょっと考えてみよう。いらぬものは買わない。
- ・人間のしていることは本当に正しいのか。
- ・自分たちの豊かな生活の裏。
- ・私たち（同年代）には、これができる。
- ・一人一人が努力すれば環境問題は少しずつ改善できること。
- ・日頃身勝手に捨てている物にもちゃんと価値が残っていたりすること。無駄使いがあふれている生活を見直してほしい。
- ・環境問題の対策は私たちの生活もちょっと良くするというのを伝える。
- ・今すぐ取り組めて、長く続けていける方法。
- ・何事も私たちの心がけ次第で変わる。
- ・私たちの環境に良いことをしているという実感すれば、達成感によってもっとエコ活動への意欲がわいてくると思う。
- ・人間だけが地球に住んでいるんじゃない。
- ・環境を悪化させている一員であるということ。
- ・個人でもできることがたくさんあることをアピールする。

(作品について)

- ・動物をモチーフに問題提起や訴えかける作品、直接自分たちでできることを呼びかけるもの、現況を提示し考えさせるものなど、バラエティに富んだ作品ができてきました。消化不良になってしまい、上手く表せなかったものもありましたが、現時点でのひとつの思いが表現できたと思います。



7. まとめ

(所感・反省)

今回は、年間の授業計画に強引に、半ば振じ込むように「パームヤシ」を入れたので環境問題の点でしか展開ができませんでした。画像等のネタがたくさんあっただけに残念です。(時間はありませんでしたが…)その割には、生徒の反応はよかったです。やはり実体験の強さと、画像や資料の力でしょうか。様々な見方や考え方を提示する一方、正しい解決方法(正解)が「無い」「わからない」現状では、堂々めぐりに陥ったり、行き詰ったりと生徒は大いに悩んでいました。なんとか形にしてみると、当初のものとは全く違ったものになった生徒もいました。「エコ」や「環境」というある種いま流行りのように使われている言葉のイメージは大きく、この課題を通して多角的な見方ができるようになったと思います。

また、他の学年の生徒にも、マレーシアものは小ネタとしていろいろな機会に紹介していますが、来年度には、違った観点からの別の展開での授業を行ってみたいと思います。ただ、山のような資料を目の前にしていると、どの切り口ですればいいかが悩ましいところですよ。

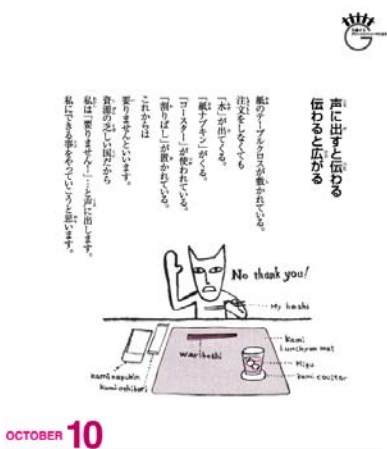
[資料]



※1



※2



※3



※4